

朝鮮石人像を訪ねて (27)

深田 晃二

☆ 国立東京博物館 ☆

むくげ通信238号「訪ねて(7)」で上野の東京国立博物館の石人像と石羊2体を写真付きで次のように紹介した。「上野博物館北門近くの庭園の文人像一体と石羊2体。陵墓では文人や武人の後には決まって石馬が各1体配置されている。石羊は陵墓を護る様に陵墓の周囲に石虎と一緒に外を向いて配置されている。このような配置で展示されるのは間違ったイメージを与えるので、「国立」だけに配置にもう少し配慮を願いたい。」



この時は他人撮影の写真①を借用したが、今年訪問時(2008年8月25日)に自分で撮った写真を見返して大変な事を発見した。



まず石人像の後から取った上の写真②を見て頂きたい。石人像と石羊の間に横たわっている石造物がある。根本に巻いた四角いコンクリート土台ごと横倒しになっているのは望柱石ではないか。見つけた時は粗末な扱いに驚きを通り越して怒りをも感じた。



続いて左の写真③を見て頂きたい。文人像の手前に横たわる石材がある。これもよく見ると、あろう事か文人像が横たわっているのである。顔面や衣服の彫り込みが浅いが、笏を持つ手を覆う衣服の襷など間違いなく頭を右にした文

人像である。別の写真を縦④にすると、手の部分の衣服・肩・耳・冠などからハッキリと文人像と認識



できる。また、右上の写真⑤を見ると、頭の部分が2つ見える。と言うことは、2体が横たわって放置されているわけだ。直立している文人像に比較して展示価値が低いと判断しての処置なのか。どこの国からきた物か不明の奥の獅子像との間には最初に指摘した望柱石の頭部が見える。

この写真には更に驚愕すべき物が写っている。手前の切石と中央の小さい木の間に擬宝珠のような物が見える。これも望柱石の頭部と思われる。と言うことは、この望柱石は途中で折られて頭部だけがうち捨てられていることになる。

隣国から受難の末に日本にたどり着いたこれらの石造物を、日本を代表する東京国立博物館ともあろう所が、かくもないがしろにし、かくも無神経に扱っているということは、他国の文化に無頓着な、或いはその民族文化に対する認識が稀薄なせいではないかとの疑念が湧いてくる。博物館の方々にその真意を問いたい。あるいは此の状態は一時なもので、撮影から既に5年が経っているので、改善されて現在は本来の姿で展示してあるのだろうか。

☆ 杜本神社周辺 ☆

訪ねて(26)で、河内駒ヶ谷の杜本神社を訪問し、そこには石人像は無かったと報告した。金達寿「日本の中の朝鮮文化2」に杜本神社に関する記述があるので、改めて読み直してみた。

「駒ヶ谷は、・・・高麗(こま)という事からきた地名なのである。」「ここは高句麗系金作部の本拠だったところで、杜本という、朝鮮語モリ(頭)本からきたものだったかもしれないこの神社は、やはりそこにいた朝鮮(狛)氏族の祖神を祭ったものだった。」とある。

参道の石柱の「眞銅・金銅」の苗字は、この土地

特有の書き方ではないかと想像した。やはり金作部の本拠だと言うことになると、大和時代の中期に朝鮮半島より渡来し奈良朝の初期(和銅年間)より貨幣の鑄造を通して声価を認められ、その後梵鐘などの製造で広く名を知られた河内鑄物師の流れをくむ苗字の様である。

また、「大和(奈良県)の飛鳥が遠つ飛鳥であったことに対する近つ飛鳥であり、飛ぶ鳥の安らかな宿(飛鳥・安宿)、ふるさとということだった。」とある。

石人像には会えず空振りだったが、現地に足を運ぶことはやはり重要だ。近くには「飛鳥川⑥」があり、撮影



時は大和と錯覚し不思議な気分だったが、「近つ飛鳥」と知り納得できた。

★ 高石市伽羅橋 ★

いつも原稿をギリギリに書いていることをばらしてしまうようだが、昨日(7月27日)大阪府高石市中央公民館を訪ねた。案内された最寄駅は「伽羅橋」駅であったが支線への乗換手間を嫌って、少々遠いが本線上の高石駅で下車した。

「日本の中の朝鮮文化2」では、「鉄道の駅名が



残っているだけで、別にこれといった物はあるわけではない」「伽羅国人の日本を頼ってきた者此の付近に居住し此の橋を造った事に依り、国名をそのまま橋の名称としたのである。」とある。4月に訪ねた金海市の伽耶時代遺跡で見かけた石版⑦には同じ「伽羅」の漢字が使われていた(添字追記)。

この次の駅が百人一首の「音にきく高師の浜の仇浪は かけじやそでの濡れもこそすれ」の「高師浜」駅であり、「古志・高石」などと通じる名前であるという。王仁を祭る高石神社も近くにある様なので、いつか石人像は無くとも訪ねてみたい所である。

この次の駅が百人一首の「音にきく高師の浜の仇浪は かけじやそでの濡れもこそすれ」の「高師浜」駅であり、「古志・高石」などと通じる名前であるという。王仁を祭る高石神社も近くにある様なので、いつか石人像は無くとも訪ねてみたい所である。

★ 西宮甲陽園山王町駐車場 ★



最近行くことが減ったが、ジョギングコースで、偶然に見つけた香炉石がこれである。山を背にしたマンションの駐車場の草木が覆い被さった所で「臭い」を感じて見つけた。旧家の庭のような雰囲気の中で、灯籠の請け花様のものもあった。もっと沢山の石造物が庭石としてあった様に思える。

◎◎まだ訪問していない石人像情報を纏める◎◎

★ 高松市岡本町の茶亭・客主人 ★



香川県の「ことでん琴平線」岡本駅近くの奈良須池の北堤にある旧家で、週末のみ営業し着物を着た主人が抹茶をたててくれるという茶亭「客主人」。眞光寺と言うお寺を挟んで東西に入口があり、東側エントランスから玄関に向かうと、苔むした梁冠の文人像が2体ある。ネットから借用した写真⑨だけでは詳細は判らないが、背の高さから本来の一对の可能性が高い。

★ 室生犀星俑人像 ★

長野県北佐久郡軽井沢町にあるこの石人像⑩は、詩人で小説家の室生犀星(1889年～1962年)が旧満州国旅行の際に買い求めたと言われ、下には夫妻の遺品が納められているという。



持っている笄が小ぶりの所からすると波形帽子の宦官の様に見える。谷川原にあってよく大水で流されず残っているものだ。

★ 姫路広畑「南大門」 ★

姫路市広畑区にある焼肉店「南大門」にはショーウィンドウの中に石人像が置いてある(⑪)。母親が姫路の施設にいる時、見舞の帰りに行



こうと思いつつ行けずじまい、今母は岡山の施設に引っ越し、なお次の施設にも引っ越しており、時間の経つ速さを感じている。

(続)